

使用語境からの明清白話小説の親族呼称語の分類について

—— 「父」「母」「夫婦」を表す語を中心として

王 姝 茵

1. 問題提起

親族呼称語といえ、親族関係を表すいくつかの同義の呼称語がある。それらの呼称語の意義は殆ど同じであるが、使用される語境は異なっている。そのような違いには、よく使われる「通語—俗語¹」という分類である。この分類は全ての言葉に適用できるが、親族呼称語の細部の区別が表明できない。例えば、次の《醒世姻縁傳》からの用例では、線を引く言葉が全て「父」を呼ぶ呼称語である。「通語—俗語」という分類により、例①、②と例③は通語で、例④と⑤は俗語の言葉である。しかし、さらに分析すると、例①、②と例③は使用される語境が異なっており、例④と⑤も同じとはいえない。つまり、以下の“父”のグループの例に対して、「通語—俗語」のような簡単な分類基準によって、その五つの言葉の用いられる語境の違いをそれぞれ捉えることは難しい。

- ① 那畫士不肯下筆，說：喜神就是生前品級，令尊在日，…。晁源道：我親見先父戴金襖頭，怎說沒有。
（《醒》18.9b.9）²
- ② 那位喻相公道：…就是張兄，他的令尊被光棍辱了，把原被各罰銀十五兩。（《醒》7.12a.8）
- ③ 老計道：姐夫來家，極待來看看，也沒臉來。說小女叫俺父子說話，俺到後邊。（《醒》8.13b.9）
- ④ 狄員外說：你昨日說這錢是你爹埋下的，文書上寫的明白。…楊春聽了這話回去，自家先到了秦繼樓家，說：…那年俺爹埋了罐子錢，迷胡了尋不着。…（《醒》34.9a.3）
- ⑤ 素姐說：那麼，你媽替姓龍的舐腭。狄希陳說：你達替俺那奴才舐腭。你媽替俺那奴才老婆舐扶。
（《醒》48.8a.2）

したがって、胡士雲（2007，PP.17-20）は《汉语亲属称谓研究》の中で、親族呼称語を“面称和背称”（「当面の呼称と当面ではない呼称」）、“直系宗亲称谓和非直系宗亲称谓”（「血族の呼称と非血族の呼称」）、“谦称和尊称”（「尊敬の呼称と謙讓の呼称」）、“通语称谓与方言称谓”（「通語の呼称と方言の呼称」）、“通用称谓和专属称谓”（「通用の呼称と専門の呼称」）、“古代称谓和现代称谓”（「古代の呼称と現代の呼称」）という六つのグループに分けている³。グループの定義から見れば、その中に、“谦称和尊称”、“通语称谓与方言称谓”及び“通用称谓和专属称谓”という三つのグループは親族呼称語の使用語境と関わる。「通语称谓与方言称谓」は地域から、「谦称和尊称」は言葉の意味機能から、「通用称谓和专属称谓」は使用対象からの分類である⁴。しかし、そうした分類を実際的に使えば、問題が生じる。

まず、例①、②と例③を比べると、対象から見れば、例①“先父”が専門の呼称語、例②と③が通用の呼称語である。ただ、実際の語境からみれば、例②は例③より、会話の場面が正式で、使用者の

階層もより高い。その大きな区別を持っている言葉は同じグループに分けられた。機能から見れば、例②が尊敬の呼称語で、例①、③は対応的な分類がない。

それでは、例④と⑤は使用対象、地域及び機能から見れば同じで、俗語の言葉であるが、会話の場面が異なっている。例④は他人と間で一般の会話である。例⑤は夫婦喧嘩という個人的な場面である。以上の分析から見れば、胡士雲（2007, PP.17-20）の分類は親族語の同義語の間での区別を全面且つ系統的に体现しない。

即ち、明清白話小説の親族呼称語に対して、地域からの分類である「通語—俗語」という概念がよく使われるが、使用される語境から見れば、その分類だけは不十分である。胡士雲（2007, PP.17-20）の分類の基準が語境に言及するが、この基準は系統ではないため、呼称語の使用される語境の一面だけを反映する。使用者、使用場面、意味機能などの語境の要素から、使用される親族呼称語の区別を全面的に反映できない。

それで、明清白話小説の親族呼称語への分類は単純すぎて、使用される語境の区別が明晰ではない状況になる。そのため、本論は「父」、「母」と「夫婦」⁵の関係を表す親族呼称語を例として、明清白話小説の親族呼称語の使用される語境を詳しく分析して、使用者、使用場面、意味機能などの語境の要素の区別を全面的に反映できる親族呼称語の分類及びその基準を探ることにしたい。

2. 明清白話小説の親族呼称語の使用される語境について

明清白話小説の親族呼称語の使用される語境を明らかにするために、本稿はまず一般的な地域から分類することにより、親族呼称語を「通語」と「俗語」という二つの大きなグループに分ける。その上で、使用者、使用場面、意味機能から、この二つのグループに対して、それぞれに再分類するつもりである。（地域の分類は付録を参照された。）

2.1. 通語の親族呼称語の分類について

2.1.1. 敬語の機能を持つ親族呼称語

刘宏丽（2009, pp.41-55）は博士論文の『明清敬謙語研究』では、明清時代のよく使われる親族呼称語の敬語機能の接頭辞を並べて、“家”、“舍”、“小”、“愚”、“贱”、“荆”、“拙”、和“敝”、“先”、“尊”、“贤”、“令”、“乃”、“贵”を挙げる⁶。

即ち、刘宏丽（2009）はそのような接頭辞を含む言葉を、敬語の機能を持っている親族呼称語と見做している。しかし、胡士雲（2007, PP.17-20）は使用対象の違いにより、“先”という接頭辞を含む言葉を、“專屬称谓”に分類し、“先”という接頭辞を含む言葉意味機能を検討していない。⁷

本稿は、刘宏丽（2009, pp.41-55）の見方に賛同し、“先”という接頭辞を含む親族呼称語が親族への丁寧な呼称語として、敬語の機能を持つ親族呼称語であると考えられる。これは、表1の対比が示すように、“令尊”と“先父”は指示する対象の相異以外、使用される語境の共通点が多いからである。

- 1) 尊敬や丁寧などという敬語的な機能を持っている。
- 2) 教養のある男性間或いは男女の間での会話で使われる。
- 3) 会話を行う場面は社交的で、或いは聞き手と話し手の間柄は疎遠である。そのような場面で、敬語機能を持つ言葉は必要である。

表1 令尊と先父の例文の対照

令尊	先父
那位喻相公道:…就是張兄, 他的令尊被光棍辱了, 把原被各罰銀十五兩。 (《醒》7.12a.8)	這王三官就:小侄不才, 誠為得罪。望乞老伯念先父武弁一殿之臣, 寬恕小侄無知之罪, …。 (《金》51.15a.1)
那人問道:貴省。…。那人說年兄差矣。那是河南人, 與令尊何干。 (《聊・磨》25.373)	那畫士…。晁源道:我親見先父戴金襪頭, 怎說沒有。 (《醒》18.9b.9)
秦鐘笑道:…寶玉道:…今日你就回家稟明令尊, 我回去稟明了祖母, 再無不速成之理。 (《紅》7.9b.1)	張大說因先父在日, 有幾兩銀子, 忽然死了, 並無囑咐, 尋思著王大叔必然曉得。 (《聊・牆》4.655)
那安公子聽到這裡, 問道:…姑娘道:…即如你這囊中的銀錢。是自己折變了產業, 去救你的令尊, …。 (《兒》8.10a.7)	賈珍…。可巧薛蟠來弔, …便說:…這還是當年先父帶來的, 原係忠義親王老千歲要的, …。 (《紅》13.3b.10)
還是章秋谷道:既是你令尊病重, 你自然該應連夜趕回, …。方子衡聽了, … (《九》40.4.5)	蘧公孫道:曾和先父同事, 小姪所以知道。四公子道:我們倒忘了尊公是在那裏的。 (《儒》10.4b.4)

他の“先”を含む言葉はそういうような共通点もある。例⑥～⑧をご覧ください

⑥湯知縣再三謙讓, …問道:因何不去會試。范進方纔說道:先母見背, 遵制丁憂。(《儒》4.12b.4)

⑦那上司回將書來說道:不孝積愆無狀, 禍及先君。荊布人幸而無恙, 見與不孝同在服喪, 何煩存唁。
(《醒》16.8a.8)

⑧這裡賈璉又說道…。尤老娘笑道:…自從先夫去世, 家計也著實艱難了, 全虧了這裡姑爺幫助著。
…(《紅(程甲)》64.15b.5)

例⑥～⑧は“先父”と同じで、亡くなった親族関係を呼ぶ言葉でも、同時に様々な交際の会話で使われる敬語的な機能を持つ言葉である。使用者は教養があり、身分も高い。

即ち、“先”を含む言葉は亡くなった親族への呼称語でも、使用者、使用場面、意味機能では敬語機能を持つ親族呼称語と同じである。それらは正式な交際の会話でよく使われる言葉である。だから、本報告はこれらの類似した使用される語境で使われる言葉は同じグループに分類することができると思われ、「正式な交際用の親族呼称語」という一つのグループに分けてもいいと思われる。

尚、「正式な交際用の親族呼称語」の中で、すべては口頭の言葉ではない。例⑦の“先君”は手紙で使われるが、普通の家族間の手紙で使われる呼称語(例⑨⑩)と異なって、仕事の上下関係の往来として使われて、目立った敬語の機能を持つ呼称語である。よって、依然として、「正式な交際用の親族呼称語」に分類する。

⑨…今遣人迎汝並汝側室, 速來任所同住, 我不汝咎也。恐有雜費, 寄去銀一百兩, 驗收。晁鳳先着回報。父字與源兒。(《醒》7.4a.5)

⑩子衡接過看時, 只見那一張報紙上寫著道:上海名利棧方子衡, 父病重, 速回常, 萬勿遲誤。銓。

《九》40.4.3)

つまり、本報告は教養があり、身分が高い男性或いは男女の間で、正式な交際の場面で使用される敬語の機能を担う親族呼称語を「正式交際の親族呼称語」に分類する。

又、明清の親族呼称語の中に、敬語機能を持っている「正式な交際用の親族呼称語」と言う種類以外、日常の場合でよく使われる親族呼称語と特定の場面、特定の相手を呼ぶ親族呼称語がある。次は、そうした言葉を検討する。

2.1.2. 専門的な親族呼称語

胡士雲(2007, PP.17-20)が使用対象から“專屬称谓”というグループを作ることは合理的だと言える。しかし、使用対象だけで、そのグループの定義は広すぎて、だから、本稿は“先父”のような敬語機能を主とする言葉を“專屬称谓”に分類せず、明清の白話小説の中で、特殊な場面でしか用いられない特殊な親族呼称語或いは、特定の相手を呼ぶ呼称語を“專屬称谓”と見なしている。例⑩～⑭を以下に掲げる。

- ⑩ 戴氏也還正在，罵：大膽的淫婦。負義的私窠。我到說不與你一般見識，姑准你出馬擎神，不惟不叫你死，還照顧你賺錢養後漢子，取你三日，…。(《醒》42.6a.9)
- ⑪ 黛玉此時心中乾急，…抱著賈母的腿，說道：老太太救我。我南邊是死也不去的。況且有了繼母，又不是我的親娘，我是情願跟著老太太一塊兒的。(《紅(程甲)》82.9b.6)
- ⑫ 門子道…他是被拐子打怕了的，万不敢說，只說拐子系他親爹，因无錢償債，故賣他。(《紅》4.4b.2)
- ⑬ 秋谷又道：老實和你們講罷，…這樣的事情，除了本夫之外，只有父母家長方才可以出來說話，就是兄弟至戚也不能多講一句話兒。(《九》123.3.3)

上の例の言葉は親か夫への専用の呼称語であるが、敬語の機能を持っておらず、話し手も必ず教養人ではなく、話し手と聞き手の間柄も疎遠ではない。場面は必ず正式な交際ではない。だから、ここでは、以上の用例のような親族呼称語は使用される語境から見れば、別の類に分類すべきだと思われる。

このように、本稿は使用される語境から見れば、「通語」を三つのグループに分ける。一は「正式交際用の親族呼称語」、二は「一般用の親族呼称語」、三は「専門用の親族呼称語」で、それぞれの使用される語境の詳細は表2に示しておく。

表2 通語の三つのグループの語体の特徴

語体	使用地域	使用者	使用場面	機能
正式な交際用の親族呼称語	全国	教養が高い男性と女性	正式な交際(書面を含む)	敬語
普通用の親族呼称語	全国	限定がない	日常的(書面を含む)	特にない
専門用の親族呼称語	全国	限定がない	一般に/特別的(書面を含む)	特別な場面で特別な機能(裁判、役所関係、儀式など)

2.2. 俗語の親族呼称語の分類について

俗語の親族呼称語と言え、そのグループの使用される語境ははっきりしている。まず、使用の地域は通語より狭く、ある特定の地域である。第二、使用者の身分はとても広い、特に、女性の話し手は俗語をよく使う（例⑮～㉔）。使用場面は家庭においてで、或いは地位が低い人の間の応対である。特別な機能がなく、話し手と聞き手の仲は基本的に親密である。

- ⑮ 月娘便向西門慶道：咱這裡間壁住的花家，這娘子兒到且是好，…。西門慶道：花二哥他娶了這娘子兒，…。(《金》10.6b.2)
- ⑯ 金蓮道：…因問：端得甚麼事。玉樓道：他爹昨日二更來家，走到上房裡。(《金》21.4a.7)
- ⑰ 寄姐…叫喊道：不好，唬殺孩子了。又不是你們的媽。…。(《醒》80.2b.5)
- ⑱ 那秦小姐知道事要垂成，只得開口對夫人說道：他家裡見放著一個吊死的老婆，監裡見坐着一個絞罪老婆，這樣人也定不是好東西了。(《醒》18.12b.8)
- ⑲ 賈母方一一指與黛玉道：這是你大舅母。這是二舅母。這是你先前珠大哥的媳婦珠大嫂子。(《紅》3.3b.2)
- ⑳ 賈母因問他：跟着你娘吃了什麼好的了。寶玉笑道：也沒什麼好的，我倒多吃了一碗飯。(《紅》28.6a.4)
- ㉑ 夫人知道，走來勸女兒道：我兒，你不要恁般默氣。我看新姑爺人物已是十分了，況你爹原愛他是個少年名士。小姐道：母親，…。(《儒》11.3b.8)
- ㉒ 張金鳳道：姐姐既要我説，第一，姐姐得看九公這位老人家…。再説，姐姐就得看我公婆…。講到我爹媽，…。(《兒》26.2b.10)
- ㉓ …單表彩鸞領了娘娘令旨，一路尋思，…。[劈破玉]每日家不離娘娘左右，…平白地找着人家漢子，怎麼好開口。(《聊・蓬萊》3.773)
- ㉔ 楊家梅轉向樸齋道：趙大少爺，耐祇道仔秀寶要耐戒指。阿曉得俚無媽要説俚個碗。(《海》13.6a.3)
- ㉕ 只聽得那位三少奶奶口中自言自語的說道：…。忽聽得外面又來了一個男子的聲音，朗然說道：…。康中丞聽着這個說話的聲音就是他那位令郎，…。聽得三少奶奶笑道：…。那位三少爺也笑道：這裡是老頭子會客的地方，今天老頭子出去了，所以這樣靜悄悄的。(《九》125.2.7)
- ㉖ 沈先生聽了這話，向女兒瓊枝道：…女兒，你也須自己主張。沈瓊枝道：爹爹，你請放心。…(《儒》40.12b.9)

しかし、俗語の親族呼称語の使用される語境は大体同じであるが、使用の場面について、注意しなければならない所がある。例㉗～㉙のような、“達達”と“娘母子”は山東地域でしか使われない言葉である。北方地方で通用する“爹”と“娘”と異なる。地域のほか、そのような親族呼称語は場面が限定され、夫婦や話者の心理活動などの大変な個人的な場面でしか使われない言葉である。晁瑞(2014, pp.69)は『《醒世姻縁傳》方言歴史演變研究』で“叫达轻，叫爹重，还是叫爷为正经”と言う諺を引用して、俗語の呼称語でも、使用される語境は必ず同一ではなく、それぞれの特徴を持っていることを示す⁸。だから、本報告では、使用される語境により、俗語の親族呼称語は「通用の呼称語」と「俚語」に分けられるべきだと考える。

- ㉗ i 婦人道：達達，只怕後來要的絮煩了，把奴不理，怎了。西門慶道：…。(《金》38.5a.4)

- ii 那二搗鬼口裡，喇喇哩哩罵淫婦，直罵出門去。不想西門慶正騎馬來，見了他，問是誰。婦人道：情知是誰。…婦人道：又教爹惹惱。《《金》38.3a.7)
- ㊸ i 先是月娘對西門慶說：孩子且不消教他往墳上去罷。…只教他娘母子一個去罷。西門慶不聽，便道：…。《《金》48.5a.11)
- ii 西門慶不聽，便道：此來為何。他娘兒兩個不到墳前與祖宗磕個頭兒去。《《金》48.5b.1)
- ㊸ i 張大上，白他有達媽人兩個，我有俺達一個人，雖然叫達一樣叫，俺達不如他達親。《《聊・牆》1.633)
- ii 張老爺因著自己沒兒，見張誠是個齊整人才，有心拾了他去做個義子。不一日，就到了瑞州。[疊斷橋]到了瑞州，到了瑞州，便與太太說因由。實話告張誠，要他把乾兒做。無家可投，無家可投，重拜爹娘另磕頭。張誠無奈何，只得全俯就。《《聊・慈》6.697)

表3 明清白話小説の親族呼称語の使用される語境による分類と特徴について

通語 (全国)	正式な交際の呼称語	敬語で、使用者が限定され（多くは男子）、場面が形式的で、書面も口頭も	令尊 令堂 令正 先父 先母 先君 先考 尊翁 尊制 尊堂 尊造 尊宥 家父 家母 先夫 賤荆など
	専門用の呼称語	特別な場面がある、使用者が広い（ある場面では、官吏、役人など特殊な身分）、敬語ではない、書面も口頭も	亡父 亡母 後父 後母 養母 嫡母 庶母 継母 正妻 亡夫 本夫 官妻 賤妾 ⁹ など
	一般用の呼称語	一般の場面、使用者が広い、敬語ではない、書面も口頭も	父 母 父親 母親 丈夫 妻子 側室 妻 妾など
方言 (地域)	普通用の呼称語	一般の場面、使用者が広い、敬語ではない、口頭を主とする。	爹 娘 爺 漢子 娘子 媳婦 老公 老婆 後娘 親娘 親爹 後漢子 統娘子など
	俚語	私的な場面、使用者が限定され、敬語ではない、口頭語	達達/達 妈妈 無姆 娘母子 当家的 浑家 堂客など

3. 結論と今後の課題

ここでは、「父」、「母」と「夫婦」を例として、明清白話小説の親族呼称語の使用される語境及び分類を検討した。本報告は、使用される語境の違いにより、親族呼称語を五つのグループに分ける。その分類と使用される語境の詳細は図1と上の表3のようである。

今後は、ここでのまとめを基礎として、明清白話小説の親族呼称語を全般的な考察をするつもりで、より厳密的な使用される語境の分類の系統を完成しようとする。

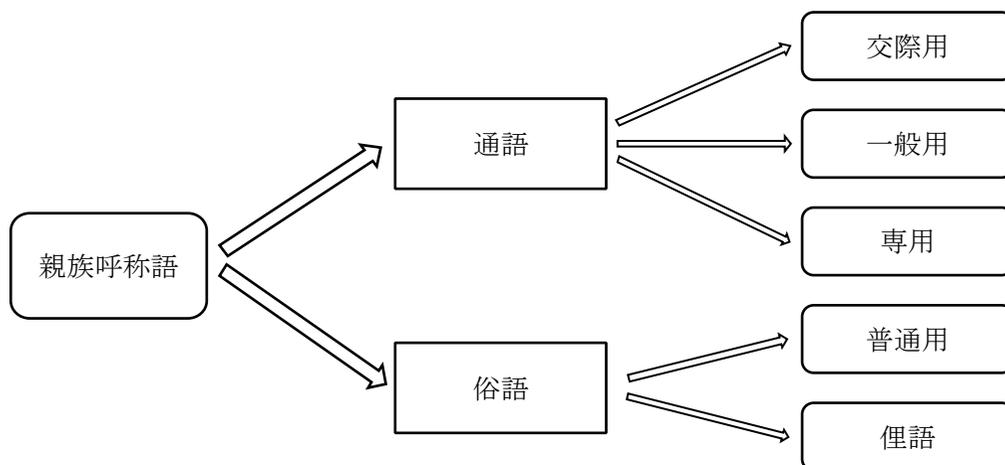


図1 親族呼称語の分類の構造図

注

- 1 俞理明 (2008, pp.71) により、「俗語」が二つの意味を持つ。一つは地域から見れば、「通語」と対となり、もう一つは、社会階層から見れば、下の階層の言葉を指す。本稿は地域からの意味を取る。
俞理明 2008 <词汇历史研究中的宏观认识>《江苏大学学报》2008年第3期 P71
- 2 本稿の用例は台湾・中央研究院の「近代漢語コーパス」と Dr. Donald Sturgeon (徳龍) の「中國哲學書電子化計劃」によって検索した。
<http://app.sinica.edu.tw/cgi-bin/kiwi/pkiwi/kiwi.sh>. <http://ctext.org/zh>.
但し、論文に取り上げた用例は全て各小説の影印本と対照した。出典の表示が例の通りである。例えば:《醒》18.9b.9は、《》は書名、18が回数、9bが葉数 (aが葉の表、bが裏) で、9が行数を指す。なお、長文で行を跨る用例は最初の下線を引く語の行を表記する。以下同じ。
- 3 胡士雲 (2007) : 《汉语亲属称谓研究》北京商務印書館 2007年9月 P17-20
- 4 胡士雲 (2007) : 《汉语亲属称谓研究》北京商務印書館 2007年9月 P17-20
- 5 父、母、夫婦を例とすることは、その三つの親族関係が最も基礎的な親族関係で、さらに父、母、夫婦を表す親族呼称語の同義語が多く、使用される語境も多様で全面からである。
- 6 刘宏丽 (2009) : 《明清敬谦语研究》(博士論文) 2009年4月 P41-55
- 7 胡士雲 (2007) : 《汉语亲属称谓研究》北京商務印書館 2007年9月 P17-20
- 8 晁瑞 (2014) : 《<醒世姻缘傳> 方言歷史演變研究》北京中国社会科学出版社 2014年1月 P69
- 9 “賤妾”に二つの意味がある。一つは女性の自分への謙讓を表す呼称語である。ここでは、親族呼称語として、出身が低い妾への専用呼称語である。(『古今称谓詞典』P100)
- 10 《海上花列傳》で、会話だけが呉語であるから、付録の地域の表で欄を分けて、左が会話、右が地の文である。
- 11 《九尾龜》で、妓女の会話だけが呉語であるから、付録の地域の表で欄を分けて、左が妓女の

会話、右が妓女の以外の会話と地の文である。

- 12 呉語で“老母”の意味は「妻」と言うことである。

参考文献

- 1 《金瓶梅詞話》蘭陵笑笑生（明 萬曆）香港太平書局 1981年 9月
- 2 《醒世姻緣傳》西周生（清 同德堂刊本）上海古籍出版社（古本小説集成）
- 3 《聊齋俚曲集》蒲柳泉（清）台湾進學書局 1970年 8月（《聊齋全集》）
- 4 《紅樓夢》曹雪芹（清 庚辰）人民文學出版社 2010年 1月
曹雪芹 高鹗（清 程甲）瀋陽出版社 2006年 7月
- 5 《儒林外史》吳錦梓（清 臥閑草堂本）人民文學出版社 1975年
- 6 《兒女英雄傳》文康（清 聚珍堂初刊本）上海古籍出版社（古本小説集成）
- 7 《九尾龜》丁寶銓（清 上海交通圖書館本）上海古籍出版社（古本小説集成）
- 8 《海上花列傳》韓邦慶（清 光緒20年初刊本）上海古籍出版社（古本小説集）
- 9 俞理明 2008 <词汇历史研究中的宏观认识>《江苏大学学报》2008年第三期
- 10 胡士雲 2007《汉语亲属称谓研究》北京 商务印书馆
- 11 刘宏丽 2009 <明清敬谦语研究>（博士論文）
- 12 晁瑞 2014《<醒世姻緣傳>方言歷史演变研究》北京 中国社会科学出版社
- 13 杨应芹 诸伟奇 1989《古今称谓词典》合肥:黄山书社出版

付録

i 部分の「父」「母」「夫婦」を表す親族呼称語の地域の統計（通語）

呼称語		金瓶梅 詞話 1-6	金瓶梅 詞話 7-100	醒世姻 緣傳	聊齋俚 曲集	紅樓夢 1-80	紅樓夢 81-120	儒林 外史	兒女英 雄傳	官場現 形記	二十年 目睹之 怪現狀	海上花 列傳 ¹⁰		九尾龜 ¹¹		
	地域	江淮	山東	山東	山東	北京	北京	江淮	北京	江淮	江淮	呉語	呉語			
	時代	明	明	清初	清	清中	清中	清中	清末	清末	清末	清末	清末			
通語	正 式	令尊	0	0	4	18	2	3	0	5	0	0	0	0	0	5
		令堂	0	2	2	10	0	1	5	5	11	1	1	0	0	0
		令正	0	6	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
		令寵	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		尊翁	0	0	2	2	1	2	11	6	0	1	0	0	0	0
	交 際	尊制	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
		尊堂	0	1	1	1	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0
		尊造	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		尊夫人	0	1	1	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		先父	0	2	1	6	1	0	6	0	2	3	0	0	0	0
先母	0	0	3	0	0	0	0	7	2	5	0	0	0	0		

通	正式交際	先君	0	0	1	0	0	0	0	23	30	5	0	0	0	0
		先夫	0	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	0	0
		先妻	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		家父	0	1	5	10	6	0	4	0	2	5	0	0	0	1
		家母	0	0	7	6	2	2	0	1	3	20	0	0	0	1
		結髮	0	0	12	9	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
		賤累	2	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		賤荆	0	2	3	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小妾	1	10	2	0	0	0	1	1	1	2	0	0	0	1	
	一般	父	1	74	215	139	146	92	64	409	77	27	0	7	0	34
		父親	1	33	66	42	78	51	105	203	59	49	0	0	1	46
		爺(父)	1	3	61	40	1	14	3	52	5	0	6	26	0	0
		母	6	134	186	46	161	41	45	343	32	78	0	13	0	39
		母親	0	22	123	64	98	54	78	142	10	221	0	26	0	9
		娘	8	669	284	670	100	13	16	42	68	74	24	33	6	14
夫		12	100	164	134	53	15	28	229	20	39	6	4	0	18	
夫婿		0	0	2	1	2	0	0	15	0	2	0	0	0	3	
丈夫		1	12	108	55	10	1	22	44	11	17	0	0	0	4	
妻		15	124	129	134	82	21	41	227	13	52	4	6	0	23	
妻子		1	13	38	18	8	1	18	9	8	8	0	1	0	4	
正室		0	6	1	0	7	0	3	0	0	12	0	5	0	23	
側室		0	3	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
寵		0	1	2	0	0	0	1	1	0	1	0	1	0	5	
妾	1	16	105	11	21	10	21	27	10	59	0	2	0	26		
専門	嫡母	0	0	4	3	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	
	庶母	0	0	3	0	0	0	0	1	2	1	0	0	0	0	
	生母	0	0	8	1	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	
	繼母	0	0	6	0	3	4	0	1	0	1	0	0	0	0	
	親娘	0	6	16	35	2	3	0	4	0	1	0	1	0	0	
	後娘	0	2	10	43	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	乾娘	45	34	0	1	17	0	0	18	11	26	0	0	0	5	
	新郎	0	3	10	7	0	0	4	17	0	0	0	0	0	3	
	親夫	0	4	4	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	0	
	本夫	0	0	8	0	0	0	0	0	3	1	0	0	0	4	
	前妻	0	2	1	0	0	1	2	2	0	1	0	0	0	0	
	正妻	0	0	14	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	6	
	新人	0	3	29	2	0	5	8	23	0	24	0	0	0	1	
	賤妾	0	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	
通房	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	2		

ii 部分の「父」「母」「夫婦」を表す親族呼称語の地域の統計 (俗語)

呼称語		金瓶梅 詞話 1-6	金瓶梅 詞話 7-100	醒世姻 緣傳	聊齋俚 曲集	紅樓夢 1-80	紅樓夢 81-120	儒林 外史	兒女英 雄傳	官場現 形記	二十年 目睹之 怪現狀	海上花 列傳 ¹⁰	九尾龜 ¹¹		
俗	地域	江淮	山東	山東	山東	北京	北京	江淮	北京	江淮	江淮	吳語	吳語		
	時代	明	明	清初	清	清中	清中	清中	清末	清末	清末	清末	清 末		
	爹	1	1075	119	243	7	0	9	21	1	0	0	0	0	
	爹爹	0	11	4	121	0	0	2	1	1	3	0	0	0	
	媽	0	51	30	23	94	10	6	75	14	10	0	0	0	3
	媽媽	0	15	5	19	11	48	0	8	1	2	0	0	0	1
	無媽	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	266	0	30	0
	漢子	0	159	175	44	3	1	7	0	0	0	0	0	0	0
	媳婦	0	29	71	29	2	3	2	5	5	4	0	0	0	3
	娘子	12	143	199	256	4	0	55	9	0	1	0	0	0	0
老母 ¹²	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	2	0	
語 ¹¹	達達/達	0	69	1	141	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	娘母子	0	7	12	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
	老公	3	7	13	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	
	家主公	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	33	0	1	0
	婆子	0	0	37	20	0	0	1	0	0	8	0	0	0	0
	家里的	0	3	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	家主婆	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	1	0

The varieties of the names of relatives in vernacular novels of Ming & Qing

Wang shuyin

Abstract

There are some varieties of a name of relative. These varieties are used in different context. But, the present categorizations about the varieties of the name of relatives are not able to identify the difference of the context. So this paper tries to build a classification standard of the names of relatives from the context, which makes the difference of the context that these varieties are used clearer.